

八学大 決勝へ

野球

明治神宮大会東北代表決定戦

明治神宮野球大会東北地区
区代表決定戦は21日、弘前市はるか夢球場で、21



【東日本国際大「八学大」3回、八学大1死満塁、十鳥真乙の右横飛で1-2と勝ち越す】はるか夢球場

日に雨天で順延となった1回戦第2試合を行い、八学大(北東北1位)が東日本国際大(南東北1位)を6-1で下し、決勝に駒を進めた。最終日の23日は、午前10時から富士大(北東北2位)と八学大による決勝を行う。なお、秋季リーグ1位の八学大には1勝のアドバンテージがあるため、富士大が勝利した場合、同日午後1時から決勝戦第2戦を行い、優勝者を決める。

▽1回戦
東日本国際大(南東北) 001000000-1
八学大(北東北) 00200121X-6
(東) 大山、永井、佐賀、渡邊、山本、播磨、三井
(八) 西山、三田、坂主十鳥山
▽2塁打 山田、十鳥(八)

【評】八学大は1点を追う3回、1死満塁で小林が四球を見極めて同志に追い付くと、続く十鳥の右横飛で逆点。六回以降、山田、十鳥の二塁打などで加点し突き放した。投げては、五回から継投した三田が4回無失点の好投で流れを引き寄せた。東日本国際大は、7四球を与えるなど投手陣が制球に苦しんだ。

横飛、二塁打で3打点

十鳥 勝負強さ健在

○：北東北1位の八学大は、秋季リーグ戦の最終戦で劇的な逆転満塁本塁打を放った。十鳥真乙が3打点の活躍を見せ、序盤のロースコアの展開から一気に勝利を手繰り寄せた。

三回、内野の悪送球で先制点を許すも、その裏、3連続四球で迎えた満塁の場面で、「すぐに逆転しよう」と狙っていた甘い球を捕らえ、勝ち越しの横飛を放った。

「得点圏にランナーがいた方が強く振れる」という十鳥は、七回にも勝負強さを発揮。2死、二塁の好機で、外角真ん中の直球を左中間に振り抜く。二塁打で2点を加え、引き離した。「あれで勝利が見えた気がした」と正村公弘監督。

23日の決勝は、北東北2位の富士大。十鳥は「打ってくるチーム。ミスは少なく、良い場面で打ってきたら自分の役割を果たす」と意気込んだ。